

百日咳にご注意ください



現在全国的に百日咳と診断される方が増加しており、県内でも、特に松江圏域に報告が多いですが、出雲圏域や他圏域でもみられているようです。

☆ 次のような症状が見られたら、早めに受診をしましょう

- ・特徴的な咳（コンコンと咳き込んだあと、ヒューという笛を吹くような音を立てて息を吸う）が長期に続く
- ・夜間眠れないほどの咳がみられ、咳とともに嘔吐することがある
- ・発熱することは少ない



※ 成人の百日咳では典型的な発作性の咳は見られず、軽症で済むこともあります。乳幼児に対する感染源になり得ますので、咳などが長く続く場合は、かかりつけ医に相談してみましょう。

☆ もし百日咳と診断されたら…

【登園基準】

特有な咳が消失していること、または5日間の適正な抗菌薬による治療を終了していること

【潜伏期間】 7～10日

【感染しやすい期間】 抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで

※ご家族に百日咳と診断された方がおられる場合は、お子さまの登園についてはかかりつけ医にご相談ください。

- 百日咳は乳児が罹ると無呼吸・脳症などで死亡する可能性がある危険な病気です
- 百日咳は、感染力が非常に強く、初期に診断することが難しい病気です。これまで使用されていた抗生物質が効かない耐性菌が多くなってきたため、予防接種が大切です。
- 2か月になったら5種混合ワクチンの接種をすぐ開始しましょう。さくら組さん（年長児）は任意接種ですが、3種混合ワクチンの接種についてかかりつけ医にご相談ください。
- 現在流行している百日咳は、これまでの治療薬に耐性があり、5日間抗生物質を服用しても感染する可能性があります。保育園での咳エチケットの徹底は難しいため、予防接種はとても大切です。
- 大人が罹った場合はきちんと咳エチケットを守りましょう

